

海上アクセス運航事業の 経過及び現状について



令和8年2月20日

これまでの海上アクセス運航事業の経過

年月	内容
平成16年7月	高速船「フェニックス」が竣工
平成16年12月	高速船「カトレア」が竣工
平成17年2月	津なぎさまち開港。中部国際空港の開港とともに、高速船の第1便が就航
平成27年2月	津なぎさまち開港10周年
平成28年12月	津航路が寄港する形で存続していた松阪航路も平成28年12月に廃止され、津航路が県内唯一の海上アクセス航路に
令和2年2月	新型コロナウイルス感染症の影響により高速船の利用者数が激減
令和5年5月	新型コロナウイルス感染症の5類移行により高速船の便数を増便
令和7年2月	津なぎさまち開港20周年
令和7年4月	高速船の利用者が延べ500万人を突破

県内の航路の経過

四日市

H18.4
就航

H20.10
廃止

津

H17.2
就航

H21.9
松阪航路引継ぎ

H27.2
開港10周年

R2~R5
コロナ禍

R7.2
開港20周年

津航路が**県内唯一**の
海上アクセス航路に

松阪

H18.12
就航

H28.12
廃止

鳥羽

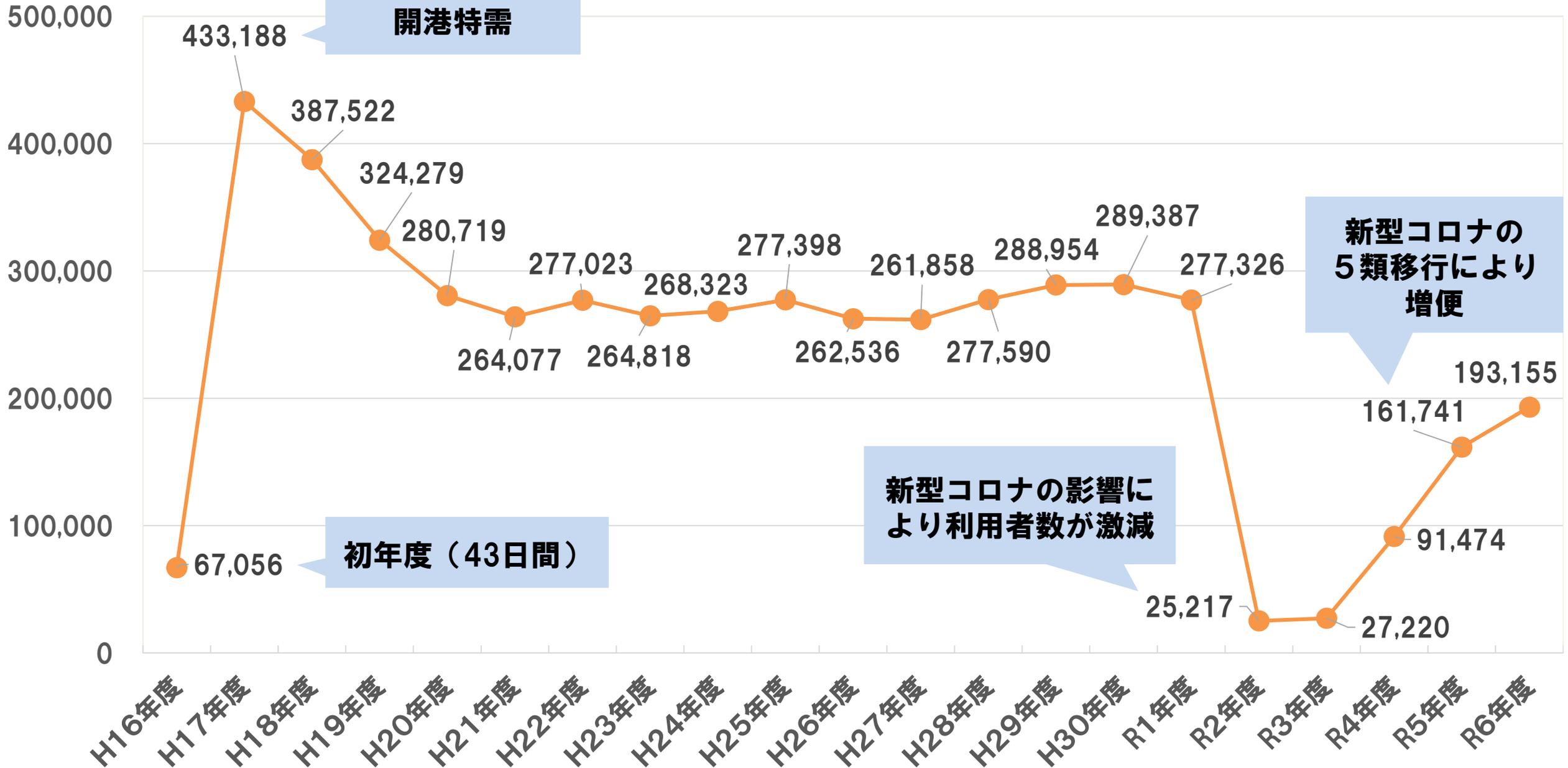
H17.2
就航

H19.3
廃止

※伊勢湾フェリーの
鳥羽港・常滑港ルート

開港以降の利用者数の推移

利用者数(人)

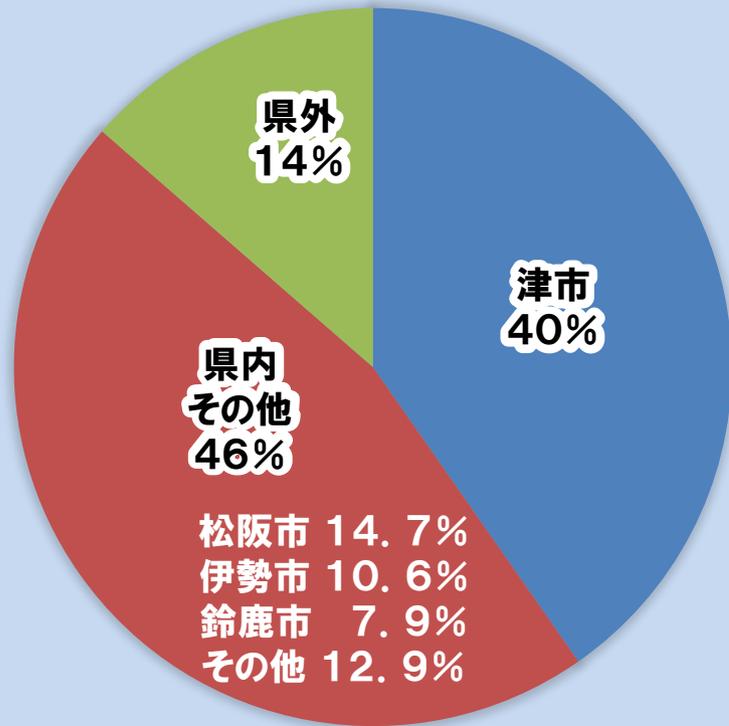


津航路が選ばれている理由

津航路の特徴

- 他の交通手段と比較した場合の時間面及び費用面での優位性
- ターミナル付近に無料駐車場(663台)を完備
- 空港に直通であるため乗り換え等のわずらわしさがなく、快適なアクセス手段

高速船利用者の居住地内訳



60%以上の
利用者が市外から

津市民以外
からも親しまれる
三重県の海の玄関口

平成30年12月22日・25日・26日実施のアンケート結果
※津なぎさまち発の全ての便の乗船者を対象に実施
(有効回答数:620件)

他の交通手段との比較

津 駅	津 IC	津なぎさまち
↑	↑	↑
1時間35分	1時間20分	45分
3,560円 (特急の場合/大人)	3,690円 (高速料金のみ)	2,980円 (大人料金)
↓	↓	↓
中部国際空港セントレア		
(抜粋)「広報津」令和7年11月号		

時間面及び費用面
での優位性

公設民営について

津なぎさまちの整備

国の補助金(5億円)を受けて県が港湾施設を整備し、市がターミナルと駐車場を整備

高速船の建造

赤塚グループから頂いた寄付金(5億円)と、県の補助金(約2億円)を活用して市が2隻の高速船を建造

運航

公募により選定された津エアポートライン株式会社が海上アクセス運航事業に関する協定に基づき運航

津市型「公設民営」

■ 津市による整備 ■ 三重県による整備



津市型『公設民営』スタイル
施設の整備

津なぎさまちの整備	
津市	15億円
三重県	15億円 (国の補助金5億円を含む)
	…計30億円
船舶の建造(2隻分)	
津市	2億円
三重県	2億円(補助金)
赤塚グループ ・株式会社赤塚 ・株式会社赤塚植物園	5億円(寄付金)
	…計9億円

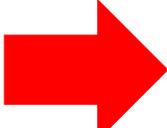
津市型『公設民営』スタイル
航路の運営

津航路の運営・維持	
津エアポートライン株式会社	
● 運航体制の構築	
● 運航手続き(許可申請など)	
● ダイヤ・運賃の決定	
● 船舶の維持管理	
津市	
● 津なぎさまちの利用促進	
● ターミナル・駐車場の維持管理	

開港から20年間のインフラ(施設・船舶)に対する投入額

単位:億円

	開港 基盤整備	船舶建造	ターミナル の運営	船舶維持	コロナ・物価 高騰対策	計
国	防波堤・臨港道路補助 5.0	0	0		2.1	7.1
三重県	防波堤・浮棧橋・護 岸・臨港道路整備 10.6	2.1	0		0.9	13.6
津市	ターミナル施設・駐車 場・用地造成・北側護 岸整備 15.4	7.1	指定管理・駐車場 用地借上 10	傭船料収入 ▲1	1.8	33.3
津エア ポートライン	0	0		傭船料・修繕点検 に要する費用 9	純資産・船舶代替 引当金の減 2.1	11.1
計	31.0	9.2	10	8	6.9	65.1

 コロナ禍・物価高という想定外の事態を乗り越え、津市が新船舶を建造

高速船「フェニックス」及び「カトレア」について

船名	フェニックス	カトレア
船質	アルミニウム合金	アルミニウム合金
船型	双胴船	双胴船
航行区域	平水	平水
全長	31.45m	31.45m
全幅	8.30m	8.30m
全深	2.65m	2.65m
総トン数	124トン	125トン
旅客定員	108名 一般100名 特別席 8名	108名 一般100名 特別席 8名
航海速力	30ノット (45分)	30ノット (45分)
搭載エンジン	(独) MTU社製 12V4000M60 ×2基	(独) MTU社製 12V4000M60 ×2基
エンジン出力	1,320kW	1,320kW



フェニックス故障後の対応①

年月	内容
令和7年 5月10日	フェニックスの左舷エンジンが故障 フェニックスの故障以降は、カトリア1隻による減便ダイヤ(1日7往復14便)で運航
5月~6月	運航事業者(津エアポートライン株式会社)が本市に フェニックスのエンジン故障に関する調査報告書 及び エンジン換装に関する検討報告書 を提出
7月14日	船主の立場から、エンジン故障の原因の特定、修繕可否等を確認するため、故障発生時に乗船していた 船長 及びフェニックスに搭載しているドイツのMTU社製エンジンの日本販売・サービス代理店である 富永物産株式会社 に対して ヒアリング を実施
7月30日	調査報告書 及び ヒアリング 、 検討報告書 の内容について、フェニックスを建造する際に基本設計及び建造監理業務を請け負った一般財団法人日本造船技術センターに検証を依頼
8月7日	津市議会全員協議会において、フェニックスの故障の状況等を踏まえた今後の方向性を協議
8月29日	一般財団法人日本造船技術センターが本市に「 高速船フェニックスの左舷エンジン故障に伴う意見書 」を提出

フェニックス故障後の対応②

年月	内容
令和7年 9月4日	意見書 を受けて、フェニックスの修繕に向けた取組を行うことは得策ではなく、エンジンの換装も妥当ではないため、フェニックスの処分及び 新造船の検討を進める ことについて、津市議会へ報告
9月25日	フェニックスの売却や代替船舶の運航準備に必要な予算を9月議会に追加上程・議決 【 歳入 】 ・財産売払収入(フェニックスの売却):200万円 【 歳出 】 ・負担金(代替船舶の運航準備):620万円 ・委託料(フェニックスの移動等):894万4,000円 ・手数料(フェニックスの売却):16万円
10月2日	カトリアの長寿命化を図るために必要な部品等を取り外すこと及び売却まで保管することを目的として、フェニックスを造船所(愛知県海部郡飛島村)へ移動
10月22日	県政要望として、市長から知事に対して次期船舶建造に係る支援を要望
10月31日	フェニックスの売却に向けてKSI官公庁オークションに掲載

フェニックス故障後の対応③

年月	内容
11月中旬	カトリアの長寿命化を図るため、必要な部品等をフェニックスから取り外して保管
11月22日	運航事業者(津エアポートライン株式会社)が確保した代替船舶「REDBIRD」が津なぎさまちに到着し、以降、タラップの製作等の運航準備を進める
12月2日～	「REDBIRD」の伊勢湾での運航に係る検証及び船員のトレーニングを開始
12月9日	フェニックスが落札される(落札金額:2,078,600円)
12月16日	落札者(株式会社蝶土里トレーディング)と、フェニックスの売却に係る公有財産売買契約を締結
12月19日	<u>次期船舶建造の検討に向けて必要な予算を12月議会に上程・議決</u> 【歳出】 <ul style="list-style-type: none">・報償費(津市船舶建造検討委員会):3万6,000円・旅費(津市船舶建造検討委員会):1万4,000円
1月9日	津市船舶建造検討委員会設置要綱を施行

フェニックス故障後の対応④・今後の予定

年月	内容
2月14日 ・15日	「REDBIRD」が就航(臨時運航)
2月17日 ~3月4日	カレアがドック期間のため、「REDBIRD」1隻体制で運航
2月20日	第1回津市船舶建造検討委員会を開催

代替船舶「REDBIRD」



以下、今後の予定

(新船舶建造に当たって、今後、基本設計着手の際に必須となる船舶の規模や性能等の仕様の決定に向けて)

2月27日	令和8年第1回津市議会定例会に令和8年度当初予算を上程 【歳出】津航路新船舶建造事業:1,527万2,000円 ・報償費(津市船舶建造検討委員会):21万6,000円 ・旅費(津市船舶建造検討委員会、関係省庁協議等):59万8,000円 ・需用費(消耗品):11万6,000円 ・委託料(基礎調査、船舶仕様検討):1,448万5,000円
-------	--